秋麻呂（あきまろ）くん通信

『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

復元された古代城柵

平成24年7月20日 秋田城跡調査事務所

秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、みんなに秋田城のことを良く知ってもらい、秋田城との絆（きずな）を深めてもらうための情報誌です。今回は、奈良時代の遺構を中心に復元整備がされた史跡公園の施設を通じて、当時の様子を紹介します。

外郭東門（がいかくひがしもん）

秋田城跡史跡公園のシンボルである外郭東門は、秋田城創建期（天平5年（733））の様子を復元しています。

雅やかなベンガラ塗りの柱と、白土塗りの壁、品格ある瓦葺きの屋根をもった壮麗で重厚な建物で、奈良の都と同様に唐風の建築様式が用いられています。築地塀で囲まれた城壁の出入口として設けられ、門を挟んで幅12mの立派な道路が通っていました。

律令国家の豊かさや品格、軍事力などを、周辺に住む蝦夷（えみし）の人々や中国大陸にあった渤海国の使者に示すシンボルの役割も果たしたことでしょう。

東北各地の城柵

東北地方には、秋田城跡以外にも多くの古代城柵の遺跡があります。いくつかの遺跡では、それぞれが担った役割を知ることができる復元整備が行われています。

■**多賀城跡**（たがじょうあと）**（宮城県多賀城市）**
陸奥国の国府が置かれたほか、陸奥・出羽両国の行政を監督する按察使（あぜち）や、奈良時代には軍事を司る鎮守府が置かれました。

■**志波城跡**（しわじょうあと）**（岩手県盛岡市）**
奈良時代後半から平安時代初期におきた蝦夷との争いの際に造営された城柵です。

■**志波城跡外郭南門と櫓**
堅牢な板葺きの櫓門に築地塀が取り付き、弓矢を射るための櫓もありました。

■**城輪柵跡**（きのわのさくあと）**（山形県酒田市）**
平安時代初期に出羽国府が移し置かれた場所（井口国府）と考えられています。

■**城輪柵跡政庁南門**
精巧な妻飾りを備え、屋根に瓦が葺かれた国府政庁域の正門にふさわしい門です。

■**払田柵跡**（ほったのさくあと）**（秋田県大仙市）**
二つの丘陵を3.6kmにわたって取り囲む外柵と、政庁域がある長森丘陵を囲う内柵からなる城柵で、平安時代初期に雄勝城が移転したとも考えられています。

■**払田柵跡外柵南門（左）**
板葺きの櫓門で、材木塀が取り付きます。威厳のある軍事的な印象を受けます。

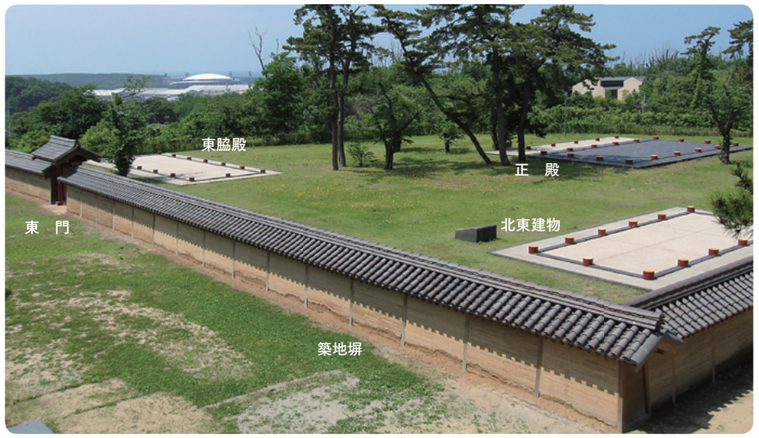
■**払田柵跡政庁域周辺（右）**
内柵南門には石垣と築地塀が取り付き、政庁域も板塀で囲まれています。

秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会　秋田城跡調査事務所
〒011-0907　秋田市寺内焼山9番6号
［TEL］018-845-1837　［FAX］018-845-1318
［URL］http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm
［E-Mail］ro-edac@city.akita.akita.jp

政庁域のすがた

秋田城跡の中心施設である政庁域は、東西約94m、南北約77mの範囲で囲われ、正殿を中心に建物が「コ」の字形に配置されていました。建物の位置や規模を現す柱などを平面表示するとともに、区画施設の築地塀と東側出入口の門を復元しました。政庁東門から政庁域に入れば、空間の広がりを体験することができます。また、晴れた日に正殿跡に立てば、南に当時の国司も見た鳥海山の姿を見ることができます。



■創建当初の政庁域（模型）
建物の高さは、柱穴の太さや間隔から推定したもので、中心にある正殿の高さは約10mと推定されています。

■復元政庁域（北東から）

■政庁東門
2本の柱からなる棟門で、外郭東門を通る道路は、この門に通じていました。

■くらべてみよう
復元と模型を見比べることで、正殿が巨大な建物であったことが想像できます。

築地塀

創建期の外郭線と政庁域には区画施設として築地塀が築かれていました。当時と同じ技術で粘土を少しずつ搗き固めて積み上げた築地塀には、本物ならではの重量感があり、秋田城の造営が重要な国家事業であったことを知ることができます。

丘陵の辺縁部に沿って、約2.2㎞にわたって城壁が巡らされていました。

■外郭築地塀
基底部の幅が2.1mあり、高さは約4m（屋根含む）と推定されます。

■築地塀の表面
3㎝の厚さまで搗き固められた粘土が、約100段積み上げられています。

鵜ノ木地区の建物群

外郭東門より外側の鵜ノ木地区にも重要な遺構が広がっています。豊富な湧き水を湛えた古代沼の向こうに、奈良時代には蝦夷の人々や渤海国の使者をもてなしたと考えられる客館（迎賓館）や、たくさんの貴重な遺物が発見された井戸などがありました。平安時代には寺院があったと考えられており、復元では時代ごとの様子を建物の柱位置から知ることができます。

■奈良時代の井戸跡
本来の深さは5.5m以上もあります。復元では上げ底にし、底に敷かれていた磚（せん）を展示しています。

■平安時代の四面廂建物跡
四方にひさしが付く立派な建物で、寺院の金堂と考えられており、周辺を囲む塀も確認されています。

水洗厠舎

鵜ノ木地区の外れで発見された奈良時代の水洗トイレです。立派な建物に水洗施設を備えた機能的な古代のトイレは、秋田城跡でしか確認されていないものです。

沈殿槽に溜まっていた土からは、果物の種やトイレットペーパの役割をした籌木などと一緒に、当時の日本人にはついていないはずの寄生虫卵が見つかりました。

実際に水を流して、仕組みを知ることができます。

■水洗厠舎の室内（上）
3つの個室があります。便槽の穴に板を渡した簡単なもので、流す水は甕（かめ）などに溜めていたようです。

■水洗の仕組み（下）
曲げ物の底から、樋（とい）を通って、沈殿槽に流れて行ったと考えられています。